

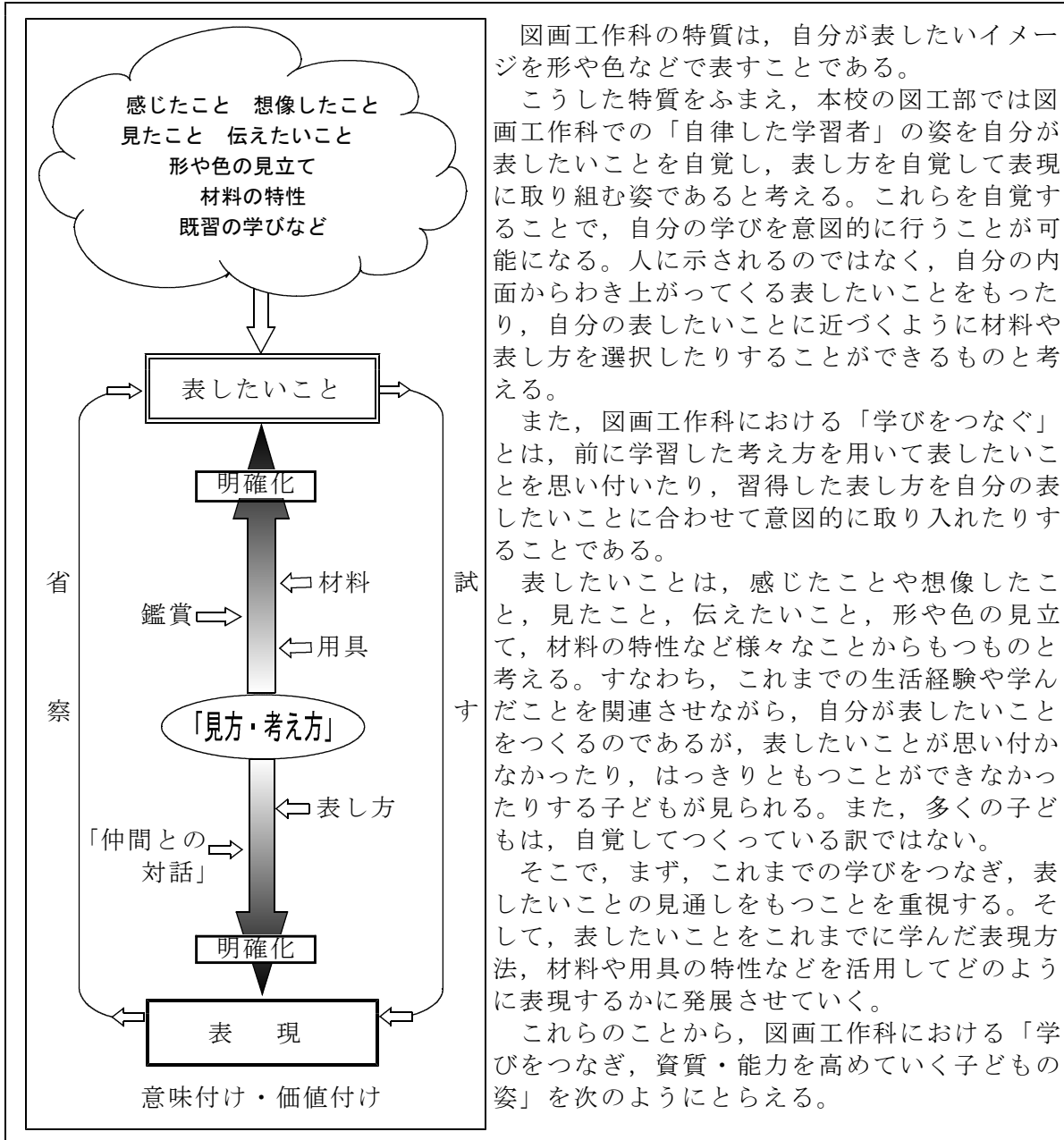
# 平成30年度 図画工作科実践・研究計画

部 員 ○進藤亨，佐々木恵

研究テーマ

**表したいことの見通しをもち、  
表したいイメージに近づくように表現を工夫する子どもを育む学び**

## 1 研究テーマについて



- ・ これまでの生活経験や学んだことを想起し、自分の表したいことの見通しをもったり、表し方を考えたりする姿
- ・ 表したいイメージに近づくように、これまで学んだ表し方を生かしたり、試す・省察を繰り返しながら新たな表し方を見付けたりする姿。

- ・ 友達と表し方を見合ったり、話し合ったりしながら、見方や感じ方を広げ深めている姿。

## 2 研究の重点

### (1) 表したいことの見通しをもつための手立ての工夫

表したいことをもつことで、どのように表せばよいのかという問いが生まれ、表したいことに合った形や色などを見出すための試行錯誤が活性化される。そして、表現することで、表したいことがより確かなものになったり深まったりしていく。ときには、表したいことが変わっていくこともある。表したいことと表現が相互に関連しながら高まっていくのである。何を表せばよいのかをもっていなければ、意図的な表現は生まれず、自分の考えや表現を意識化することもない。

そこで、鑑賞、造形遊び、イメージマップづくり、試しの活動、「対話」の場など様々な手立てを用いながら、それらをどのように題材構成に位置付け、どのような手立てが一人一人が表したいことの見通しをもつ際に、有効に働くのかを探っていきたい。

### (2) イメージや形や色などに着目した「見方・考え方」を働かせた省察の在り方を探る

図画工作科の学びにおいて、表したいことを考えるとき、表したいイメージに近づくような表現を考えるとき、作品づくりに納得しこれまでの学びをふり返るときに自ら問いを發するものとする。その際に、教科の特質として、イメージ、形や色、線、構成などの「見方・考え方」を働かせて省察することで、課題意識をはっきりとさせたり、どのように表現しようかと思ったり、学びの成果や課題に気付いたり、自分の内面に気付いたりするなど様々なことが生じる。その結果、資質・能力が高まり、よりよい次の学びにつながっていくものとする。また、友達とのかかわりによって、自分では気付かなかった一面を認識したり、友達や教師に認められることで自己有用感なども感じられるようになるであろう。

そこで、気付きやアイデアを記録するミニスケッチブックのポートフォリオ的な活用、デジタルカメラやタブレットの活用、相互鑑賞の場の設定、学習シートなどを手立てとし、個に応じて自分の学びを実感できる省察の在り方を探っていく。

## 3 研究・研修計画

時期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科部会</li> <li>・ 附属中学校公開研究協議会 (6/1)</li> <li>・ 附属小学校公開研究協議会 (6/8)</li> <li>・ 提案授業(進藤：6A,佐々木：1C)</li> <li>・ 全国造形教育研究大会秋田大会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実践・研究計画の立案</li> <li>・ 授業を通して重点事項の検証</li> <li>・ 授業づくり，授業力向上</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究紀要原稿執筆</li> <li>・ 教科部会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実践・研究のまとめ</li> <li>・ 授業づくり，授業力向上</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科部会</li> <li>・ 部内研究会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業づくり，授業力向上</li> <li>・ 研究の方向性の確認</li> <li>・ 実践・研究計画の立案</li> </ul>

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正

